

ISHIN

医心

隔月刊
無料配布

2026.9

No.113

口の健康が寿命を延ばす。
医科歯科「連携」を語る。

自民党 参議院議員 一般社団法人 石川県歯科医師会 会長

山田 宏 / 飯利 邦洋

県民と地域の命を守る！
高度急性期医療の「砦」

富山県立中央病院 院長

加治 正英

次世代の地域医療は「連携」が支える

公益社団法人 金沢市医師会 会長

大野 秀棋

研究シーズを患者のもとへ。
その橋渡し役を担っていきたい。

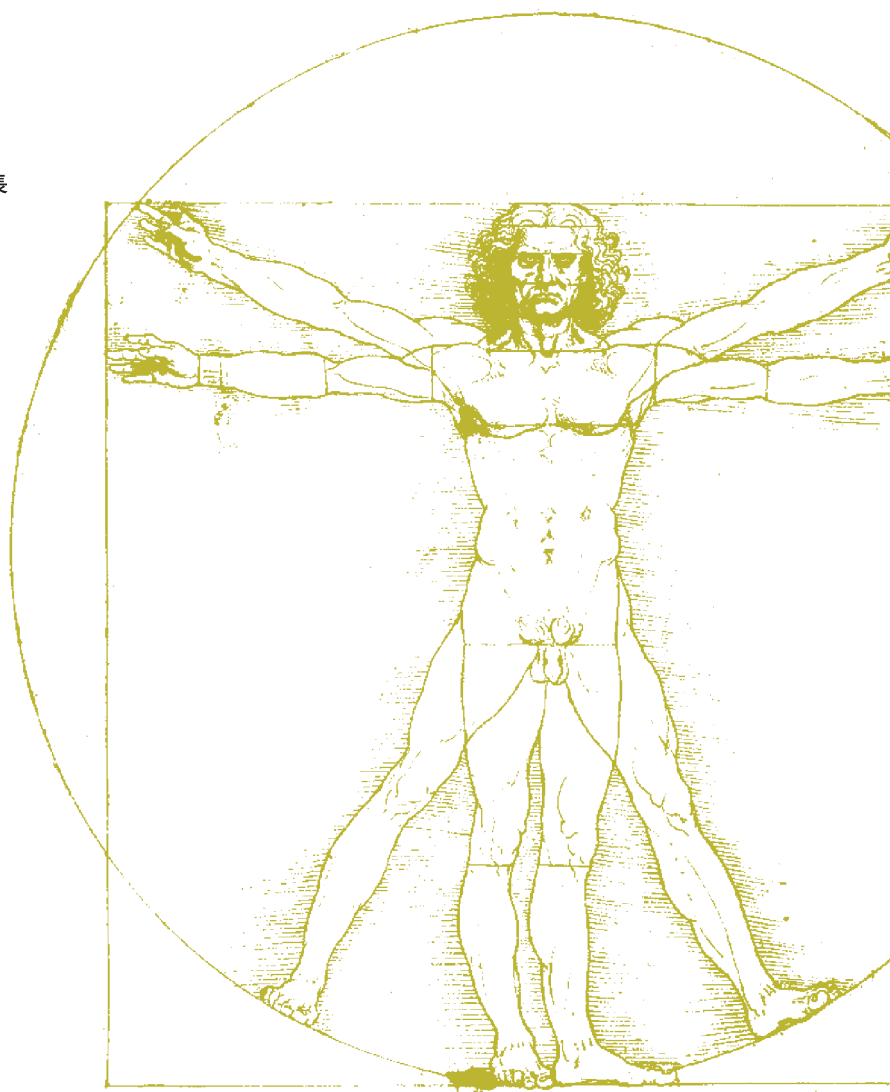
富山大学附属病院 臨床研究開発推進センター
創薬・医療技術開発室長

五月女 さき子

シリーズ 最終回 地域医療の変革者たち

公立つるぎ病院 病院長 吉野谷診療所 所長 白峰診療所・中宮診療所 所長

柿木 嘉平太 / 橋本 宏樹 / 織田 裕之



CONTENTS

04 口の健康が寿命を延ばす。
医科歯科「連携」を語る。
自民党 参議院議員 一般社団法人 石川県歯科医師会 会長
山田 宏 飯利 邦洋



12 県民と地域の命を守る！
高度急性期医療の「砦」
富山県立中央病院 院長
加治 正英



20 次世代の地域医療は
「連携」が支える
公益社団法人 金沢市医師会 会長
大野 秀棋



28 研究シーズを患者のもとへ。
その橋渡し役を担っていきたい。
富山大学附属病院 臨床研究開発推進センター
創薬・医療技術開発室長
五月女 さき子



40 シリーズ 最終回
地域医療の変革者たち
公立つるぎ病院 病院長 吉野谷診療所 所長 白峰診療所・中宮診療所 所長
柿木 嘉平太 橋本 宏樹 織田 裕之



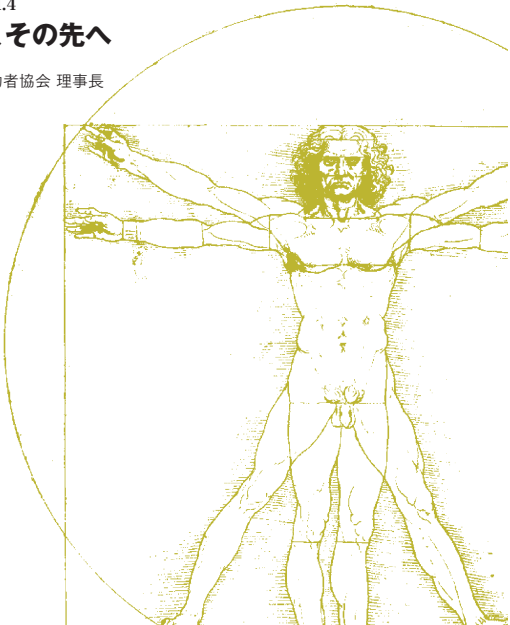
18 医心ニュース
第16回日本脳血管・認知症学会総会
(Vas-Cog Japan 2026)が開催

27 ISHIN column vol.1
院長になって。
～おなかの中から福井を元気にする。～
ふくい内視鏡・胃腸クリニック 院長
宇賀治 良平

36 ISHIN column vol.3
病院に畑をつくる。
医療法人社団 紫蘭会 光ヶ丘病院 副院長 医療法人社団 紫蘭会 光ヶ丘病院 理事長補佐
リハビリテーション科専門医 リハビリテーション科専門医
新藤 恵一郎 新藤 悠子

39 ファイネスのお聞かせください、ドクター！
DOCTOR'S VOICE
富田耳鼻科 院長
富田 かおり

47 ISHIN column vol.4
「支える」から、その先へ
日本医師事務作業補助者協会 理事長
矢口 智子



STAFF
Publisher 羽田和政
Editor 坂口俊克
Writer 上乗繁能／大廣 涼
Photographer 藤森祐治
Designer 吉田真人／西村恭子
Advisor 後山潤一／田中尚人

発行／NPO法人 学産プロジェクト
〒920-0213
石川県金沢市大河端町東55番3号
TEL 076-203-6613
e-mail: info@project-ishin.net

住まいは、居心地。

間取りや性能だけでは語れない
「暮らしの心地よさ」がある

家族と過ごす時間
街に息づく暮らし
積み重なっていく日々の営み

そのすべてが人生の記憶となって
暮らしの風景になっていく

私たちはその「心地よさ」まで設計したいと考えています

家づくりは対話の積み重ね——
家 玉家建設

本 社・ギャラリー「響」／金沢市入江3丁目29 Tel:076-291-3411
富山支店・ギャラリー「響」／富山市布瀬町南2丁目7-1 Tel:076-491-6830



動画特設サイト

医療施設

クリニック

ドクター

薬剤師

看護師

地域包括ケアシステムをサポート

ICCの情報技術「患者情報共有ネットワーク」は
地域包括ケアシステムに関わるすべての方のニーズに応える
ソリューションとして、さまざまな医療の現場で生かされています。

私たちはITで万全のネットワークを築いていきます。

栄養士

介護士

ソーシャルワーカー

ケアマネジャー

民生委員

地域の方々

在宅高齢者施設

民間支援相談室



Link The Medical Information

ITによる医療情報ネットワーク

icc 株式会社
石川コンピュータ・センター

医療システム本部 / 〒924-0833 石川県白山市向島町1100番地
TEL(076)268-8315(代) FAX(076)268-7145
医療向けソリューション <https://www.icc.co.jp/medical/>

■本社 / 〒920-0398 金沢市無量寺町ハ6番地1
TEL(076)268-8311(大代表)
<https://www.icc.co.jp/>

■支社 / 東京・名古屋
■支店 / 大阪
■営業所 / 富山・福井

口の健康が寿命を延ばす。 医科歯科「連携」を語る。

山田 宏

自民党 参議院議員

一般社団法人 石川県歯科医師会 会長

飯利邦洋

全身の健康を保つ入り口として、歯科医療の重要性が高まっている。とくに予防歯科は、医療費の抑制や健康寿命の延伸につながるとも期待される。参議院議員の山田宏氏と石川県歯科医師会の飯利邦洋会長が歯科医療と医療との連携などについて語り合った。

HIROSHI YAMADA



KUNIHIRO IIRI

なぜ今、歯科医療なのか？

自民党・比例代表選出の参議院議員・山田宏氏と、日本歯科医師連盟は、組織代表と支持団体という強固な関係にある。山田議員が、国政の舞台で訴えるのが「歯科医療の充実こそが医療費の削減につながる」という政策提言だ。歯科医師ではなく、歯科医療の専門家でもない山田議員が今、なぜ国会で「歯科医療の充実こそ国家的課題」と主張するのか？

山田 私が歯科医療を重視するようになった原点は、1999年から務めた東京都杉並区長時代にあります。当時、杉並区歯科医師会の高橋英登会長（現日本歯科医師会会長）から「口腔の健康が全身の健康につながる」というデータを示され、成人歯科健診の受診率向上施策などを区政で推進し、その重要性を強く実感したことが発端です。

杉並区長になった時、区の財政は悪化の一途でした。行政改革はいろいろなことに取り組みましたが、一番目についたのは国民健康保険組合の財政赤字です。高齢化が進み、医療費はそれにつれて上がっていました。赤字を減らし、財政再建を図るにはどうしたらいいか。

その一つが、区民の健康増進でした。疾病予防に力を入れて、病気になる人が減れば、財政赤字はそれほど大きくはならないと考え、健康政策、疾病予防に力を入れます。

提示された資料で目に止まったのは、ある県の国保連合会が毎年実施している調査結果です。年1回歯科健診をしている人の医療費が、していない人と比べて年間10万円以上下がるというデータでした。そこからいろいろ勉強をして、口腔疾患が全身の健康につながっていることを学びます。

歯科医師資格のある職員を3名、衛生士を2名区で雇用し、歯科医療や歯科健診に力を入れました。それまで10年に一度歯周病健診を行っていたのですが、受診率はせいぜい5・6%。そこで受診率をもっと上げようと予算を投入し、歯周病だけではなく歯垢を取るなどのクリーニングを呼びかけたのです。結果、受診率は15%を超え、全国トップクラスにまで上がります。

さらに、区内にある48の小学校から5つの小学校をモデル的に選出し、学校歯科医によるブラッシング指導を行いました。想定はしていなかったのですが、翌年のインフルエンザの流行期に、学級閉

口の健康が寿命を延ばす。

鎖率が例年に比べてぐっと下がったのです。ブラッシング指導をしなかった学校の学級閉鎖率79・6％に対し、5つの小学校の学級閉鎖率は45％。口腔ケアは感染症予防につながることがよくわかりました。その結果、歯科健診や歯科医療の充実が医療費の削減につながることを確信し、国会活動などで訴えるようになったのです。

全身の健康を守る口腔ケア

歯科予防が、病気になるにくい体づくりに通することは近年、医学界でも重要視されている。歯周病と糖尿病や誤嚥性肺炎、新型コロナウイルス感染症などの感染症との関係はよく知られるところだが、歯周病菌や口の中の慢性炎症が血流に乗って全身に広がると、心筋梗塞や狭心症、脳血管障害、認知症など重篤な疾患につながることも報告されている。口腔内をクリーンに保つことは、体全体の健康維持に欠かせない要素になっているのだ。

飯利 口腔ケアと感染症との関係は、高齢化の進展と共にますます身近になっていると感じます。私たちは2024年1

高市政権で攻めの予防医療

飯利 歯科の治療は、かつての虫歯治療から予防歯科が主流です。日常の歯磨き等セルフケアと、かかりつけの歯科医院でのプロフェッショナルケア等メンテナンスを続けていただきたいと思います。また「8020（ハチマルニイマル）運動」というキャッチフレーズでもご存じかもしれませんが、80歳で自分の歯を20本残そうという運動で、あらゆる種類の食物を自分の歯で食べられる歯の数でもあります。平成元年に始まった事業で、当時80歳で20本歯が残っている人は数パーセント、1桁でした。それが今は63％です。6割以上の人が、80歳になっても自分の歯で物を噛んで食べられているわけです。

子供のときから、両親が一生懸命磨けて小学校、中学校を経て、大人になっても歯のクリーニングをしつかり習慣づけて、ブラーク（歯垢）や細菌を口腔内に作らないようにする。口腔内の細菌が悪さをすると歯周病になり、歯周病菌が誤嚥性肺炎の発症に関連し、血管内に入ると心内膜炎等心疾患、糖尿病がある人は悪化につながります。歯周病と認知症との因果関係も指摘されています。



飯利邦洋

一般社団法人 石川県歯科医師会 会長

月の能登半島地震を経験しました。今年も7月28日に熊本地震がありました。災害で怖いのは直接的な被害はもちろんですが、避難所などに避難された高齢者の方々の災害関連死です。

能登の震災時、私たち石川県歯科医師会は、石川県知事の要請を受けて1月7日にJDAT（日本災害歯科支援チーム）として被災地に入りました。避難所

逆に口の中をクリーンに保つ、虫歯や歯周病を予防することによって心疾患や糖尿病、慢性的病、肺炎、認知症、感染症なども防げる。国の医療費を考えた場合、山田先生がおっしゃるように、圧倒的に口の中の健康を保つことが重要だと思っています。

山田 国の口腔の健康に対する認識は、

を回ってまず感じたのは、着のみのまま避難された方が多く、義歯（入れ歯）を置き忘れ、水や電気、トイレが使えない中で、歯磨きさえ満足にできていない状態でした。食料はありますが、炭水化物系が中心で口の中は糖分が多く、それだけでなく細菌が発生しやすい状況にありました。

私たちは口腔ケアの用品を持参して一

当初は厚生労働省の中でも一部局でしかなかったと思います。国の重点政策である骨太の方針に「口腔の健康が全身の健康に直結している」と明記されたのは、2017年です。それから9年余り、今では国民皆歯科健診に向けて取り組んでいるのをはじめ、「8020運動」についても、大きな成果につながっていると思います。

人ひとりの口腔ケアにあたりましたが、ペットボトルはあっても水が絶対的に足りないですし、歯磨きをしても下水に流すことができません。液体歯磨きやマウスウォッシュを使ってブラッシングをし、紙コップの中に吐き出しティッシュペーパーを入れて可燃ゴミとして捨てる。そういう工夫をして口腔ケアを行いました。家で普通にできたことが避難所でなかなかできないと、災害関連死の一番の要因とされる誤嚥性肺炎を起こしやすくなります。

能登半島地震では、珠洲市内にあった歯科医院5軒が被災して、全壊した医院もあって、震災後3カ月間歯科診療ができないう状態でした。その時に、歯科の巡回診療車を持っていた福井県の協力を得て、珠洲市「道の駅すずなり」に配備することができたのです。3カ月で1000人近い人が訪れました。その経験もあって、石川県にはそれまで歯科の巡回診療車はなかったのですが、2026年4月に県の補助もあって配備されました。今回の令和8年熊本地震では、JDATの要請を受け、石川県から歯科の巡回診療車を被災地に配備することができたのは良かったと思います。

具体的な成果として、高市総理が総裁選の時に「攻めの予防医療」に国の予算を出すべきだとおっしゃって、これが衆議院選の公約にもなりました。攻めの予防医療とは、具体的に二つあります。一つは、がん健診での陽性者の精密検査をしつかり行なって早期発見、早期治療につなげる。もう一つは、国民皆歯科健診の実現で、先ほどお伝えした口腔の健康です。

歯科医療を通じて国民の全身の健康を維持し、健康寿命を伸ばし、国民皆保険制度を維持する。そして働きたい人がいつまでも働ける環境をつくるのが、日本経済にもプラスになると。その切り札として国民皆歯科健診、口腔の健康維持が大きな柱になってきたといえます。

歯科連携で医療が変わる

飯利 骨太の方針に明記された当初は、まだ小さな扱いでした（笑）。ですが年々ボリュームアップして、山田先生をはじめとする国民歯科問題議員連盟の皆様のご尽力もあって、国の予算に歯科の課題が反映されつつあるのは大きな成果だと認識しています。歯科医療の予算も倍々で増えてきております。巡回診療車配備



山田宏 自民党 参議院議員

口の健康が寿命を延ばす。



CROSS
ISHIN

にしてもそうですが、災害に強い歯科医療体制が整っているからこそここで災害が起きても、過疎地であっても、しっかりとバックアップできる体制を整えることが重要だと思っています。

山田 私が2016年に参議院議員になったとき、当時の歯科関係の予算は4億円でした。それが現在は70億円です。骨太の方針に入ると予算化されるので、ここ9年余りで17〜18倍の伸びになっています。その中には、今おっしゃった歯科診療車への災害対応はじめ、全国的な歯科医師不足や、過疎地の歯科医療をどうするかなどの対策費も含まれていますが、遠隔医療も可能になってきておりますが、本当に必要な医療は何かということをしつかり把握して、今後必要な医療を届けるために何をしていくかが重要だと思います。

歯科医療の重要性の高まりとともに、クローズアップされるのが医療との「連携」だ。在宅医療や訪問診療、福祉施設などで歯科医との連携は進みつつあるものの、医療全体からみるとまだ「歯科は医療の一部」ではない。今後、医療との連携はどう進んでいくのだろうか？

山田 医科歯科の連携は、進んでいくと思います。口腔の健康は全身の健康とかかわっていることは、たとえば糖尿病学会や心臓病でも因果関係が明らかになっていますし、脳卒中の入院患者さんに口腔ケアや歯科医療をきちんとやると入院日数が半分ぐらいになるとか、病院の稼働率が上がって経営に寄与していることもわかってきた。病院経営者の中には、歯科医療が必要だということ人も増えてきています。歯周病と認知症の話がありました。歯周病とアルツハイマー病が関係しているのではないかと、皮膚科の疾患で口腔内に問題があるのではないかといった研究も進んでいると聞きます。それぞれの疾患分野で、学会や研究者が、歯科が関連していることがわかれば医療はどんどん変わっていくと思います。



生きることは食べること

飯利 私は、臨床の歯科開業医ですから、地元の医科開業医の皆さんや病院の先生方との付き合い、フェイス・ツー・フェイスの関係もあります。手術を控えた患者さんには、かかりつけの歯科医院の先生のところでお口の中を必ずクリーニングして、疾患があれば手術前に治療してほしいと情報提供があります。入院後に、口腔内の細菌が病気を悪化させることは先生方もご存知なので、口腔内をきれいにすることの大切さ、重要性はわかっておられます。ただ今後、医科歯科連携が広がるためには、歯科衛生士さんの確保などを含めて、受け入れ体制を整えることを急ぐ必要があります。

格者が約30万人いるのに、実際に働いている人は約14万人という状況で、結婚退職したあとで復職できる仕組みが確立されていない現状があります。国民皆歯科健診を実現していくためにも、歯科診療所に対する診療報酬の引き上げや働き場所の確保を含めて、歯科医療の体制づくりを進めていく必要があると思います。

飯利 口の健康を守ることは、全身の健康に通ずるという話をしましたが、歯科医の立場から言わせていただくと、私は「生きることは食べること」だと思っています。そのためには、8020運動もそうですが、最後まで自分の歯で食べられることが何より重要なことです。味を感じるといって、家族と食卓を楽しむことも健康長寿には不可欠です。そのためにも口腔ケアをしつかりして、全身の健康状態を保つことをぜひ、心がけていただきたいと思います。

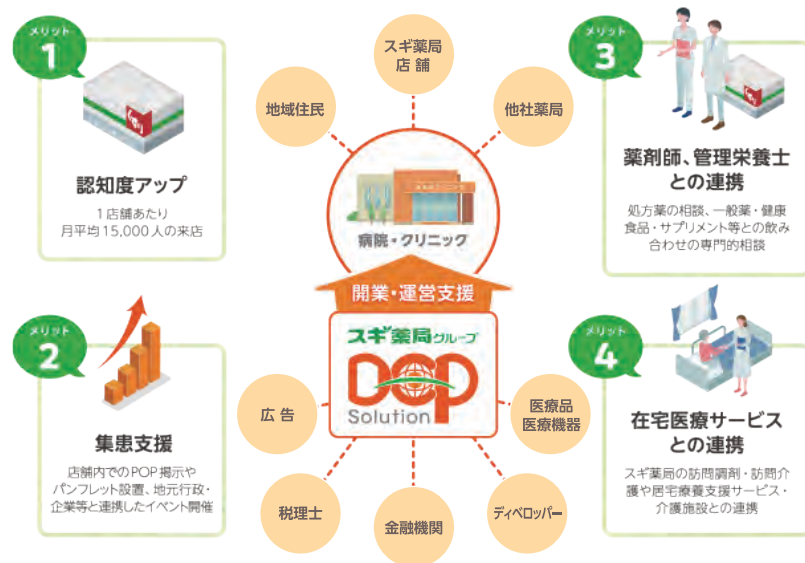
山田 衛生士さんの確保は、たしかに喫緊の課題です。国家試験に合格した有資

D C Pソリューションは
豊富な経験とネットワークを持つ
先生方のよきパートナーとして
開業支援サービスを提供しています。

ドラッグストア併設で 理想の開業を！

D C Pソリューションの提供サービス

経営理念、診療方針の作成
開業までのスケジュール作成
開業地の選定、診療圏分析
事業計画の策定
融資の打診及び交渉
設計、内装業者紹介及びアドバイス
医療機器選定
税理士、公認会計士の紹介
広告相談
従業員募集、採用、教育の補助
開設手続き
開業後の経営支援、拡大展開
継承支援



0120-911-545

平日(土曜・日曜・祝日を除く)の9時00分～18時00分

<https://dcp-sol.com/article/docvoice/>

拠 点

- 関東エリア(本社) ●東京都千代田区鍛冶町一丁目7番6号
ビルトップ神田ビル
- 中部エリア ●愛知県大府市横根町新江62番地の1
- 関西エリア ●大阪府大阪市淀川区宮原一丁目2番4号
新大阪第5ドイビル13階
- 北陸・長野エリア ●石川県金沢市藤江北4丁目280番地

開業の事例や
先生方の声が
ご覧頂けます



移動できる。
それはよろこびを運ぶ。
どんな地域でも、どんな人も、どんなときも。
そのためにわたしたちは、
むずかしいことやあきらめをできるかぎり取りのぞく。
モビリティとは人間のポシビリティ(可能性)だから。
笑顔が循環する。
人の輪が集まり、未来が動いていく。

Smile.
Possibility.

私たちはこの新しいロゴマークを「スマイルリング」と呼んでいます。人の輪が集まり、未来が動いていく。笑顔の循環を表現しています。

Toyota Mobility Ishikawa

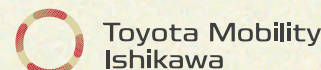
全ての感謝を、確かな貢献へ。

誰ひとり取り残さない移動の自由のために

創業以来、私たちは石川の皆さまとともに歩み、クルマを通じて暮らしのそばに寄り添ってきました。これからは、自動車販売の枠を超え、地域の移動にまつわるさまざまな課題に向き合う存在へ。誰もが安心して、自由に移動できる未来をめざし、新たな一歩を踏み出します。

私たちトヨタモビリティ石川株式会社は、2026年7月1日、株式会社石川トヨペットカローラから社名を変更し、新たな一歩を踏み出しました。

トヨタモビリティ石川株式会社



これまでの感謝に胸に
70周年大創業祭 7/1-9/30



レクサス金沢駅西
レクサスCPO金沢



MOBILITY PARK
KANAZAWA

福祉車両専門店
モビリティパーク金沢





Toyama Prefectural Central Hospital

富山県立中央病院

県民と地域の命を守る！ 高度急性期医療の「砦」

富山県立中央病院は、県内を代表する基幹病院として高度急性期、救命救急、がん医療、周産期などあらゆる医療と最先端の設備を整えている。「やさしさ」「信頼」「安全」をもとに県民と地域の命を守り、選ばれる病院をめざす。

風通しの良い連携を築く

北陸新幹線と、あいの風とやま鉄道が乗り入れる富山駅から車で約10分、北陸自動車道富山インターから国道41号線を経由して約20分。富山市西長江2丁目に、アイボリーを基調にした巨大な建物が姿を現わす。富山県立中央病院だ。

地上10階地下1階。病床数665床、診療科35、常勤医師は235名（初期臨床研修医38名含む）、常勤看護師765名（いずれも2026年4月現在）。地方都市の基幹病院とはいえ、堂々たる陣容である。

実際、高度急性期医療、救命救急医療、がん医療、周産期医療、精神科医療など、あらゆる医療に対応できる体制と環境を整えている。県民の命と健康を預かる医療機関として、地元富山はもとより、北陸を代表する医療機関と言って差し支えないであろう。

その巨大病院のトップに立つのが、2026年4月に就任した加治正英院長だ。就任してまだ半年に満たないが、直前まで副院長として先々代、先代院長を補佐してきた。

1990年代前半に富山県立中央病院に入職以来、ほぼ30年にわたり外科部長、

診療部長、医療局長、副院長などを歴任、病院のことを知り尽くした人でもある。

専門は消化器外科で、胃がん、内視鏡外科のスペシャリストとして多くの学会で指導的な立場を務めている。院長として、まずはどんなことから優先的に取り組んでいくのか、胸の内を聞いた。

「ここ数年どこも病院経営が厳しいので、本当はベッドの稼働率を上げるとか目標は色々あります。ただ私自身が、真つ先に取り組んだのは院長の就任挨拶を兼ねて、地域の開業医さんやクリニックさんを回ったことです。トータル40軒ほどです。もともと13年前に、当院が地域医療連携室の体制を拡充し、その後、私が総合地域連携部長になるなど、地域医療や医療連携に取り組んできました。院外のクリニックや医院を回って、いろんな状況を聞くことで地域の現状が分かりますし、新たな連携先や患者さんの紹介にもつながります。当院は高度急性期病院ですが、地域のかかりつけ医さんの中には『重症じゃないから（患者を）紹介するには敷居が高い』と感じる先生もいるようです。そんなことは全然なくて、当院で診てもらった方がいいと思う患者さんがいたら、疾患に関わらずぜひ紹介していただきたい。風通しの良い地域連携

TOYAMA
MEDICAL
FRONT



富山県立中央病院 院長
加治 正英



TOYAMA MEDICAL FRONT

Toyama Prefectural Central Hospital

を広げていきたいと思います」
高度な医療だけではなく、地域全体を支え、持続可能な医療を提供するために連携する。基幹病院のトップとしての加治院長の姿勢が伺える。

赤ちゃんにやさしい病院

富山県中は「やさしい」「信頼」「安心」の理念を掲げる。その理念を実践する一歩として、加治院長は「あいさつ」を大切にしている。職員同士はもとより、患者とすれ違う時など、お互いに気持ち良いあいさつをかわすことで、目に見えない効果が生まれるという。

「職員同士が笑顔で声を掛け合い、相談しやすい職場づくりを進めることは、医療安全やチーム医療の向上にもつながります。当院は、研修医や医学生も結構いますので、職員とのコミュニケーションや信頼関係を築ききっかけにもなります。職員同士が『おはようございます』『おつかれさま』とあいさつをかわす姿は、何より患者さんにも伝わります。患者さんから職員に話しかけやすい空気生まれます。院内を回るとそういう光景に出くわすんですよ。当院は「堅い」イメージで見られやすいので、雰囲気を変える

ときに重要なのは、地域の医療機関同士の信頼に基づく連携である。加治院長は「もはや当院だけで地域医療を支える時代ではありません。病院間の連携をより一層強くし、それぞれの役割を明確にすることが不可欠です」と強調する。

富山県立中央病院は高度急性期や救命救急、がん治療などより専門性の高い分野を重点化し、急性期を終えた回復期や在宅などの包括期、復帰に向けたリハビリなどを地域の医療機関やクリニック、福祉施設が引き受ける。まさに、切れ目のない連携による医療機能の集約化こそが重要になるといえる。

命をつなぐスーパーICU

そうした地域医療連携の要ともいうべき富山県立中央病院は、高度急性期病院としてのどのような診療体制を整えているのか？

「がん診療、救命救急、外科手術、周産期医療はじめ、内科、小児科を含めた24時間の当直体制を整え、昼でも夜でも常時、対応できる体制になっています」（加治院長）

実際、高度急性期医療や都道府県がん診療連携拠点病院として、大学病院並み

いい機会になればと思っています」

加治院長は、富山県立中央病院が「職員自らが受診したいと思う病院」であることもこだわる。職員が受診することで「家族にも勧めたいと思う」とし、同様に親戚や友人、知人にも声をかけやすくなるからだ。

「たとえば、当院には765人の看護師がいますが、女性看護師が出産する際、全員が富山県中にかかるわけではありません。当院には、総合周産期母子医療センターがあります。ハイリスクな妊娠、出産はもとより、生まれたあとは母乳育児を推進しています。ユニセフ・WHO（世界保健機構）による『赤ちゃんにやさしい病院（BFH）』の認定を2004年に取得し、2023年には『赤ちゃんにやさしいNICU（新生児集中治療室）』にも認定されています。お母さんや赤ちゃんが安心して受診できる病院なので、職員自身が当事者になったときはもちろん、ご家族や友人、知人にもおすすめできる病院でありたいのです」

意味するところは「地域になくてはならない病院」であること。これからの地域医療は、急性期病院と地域の開業医やクリニックはじめ、多くの医療機関との機能分化が進むと考えられている。その

の最先端医療と、先進的な設備環境を整えている。その機能は、中央診療棟北側にある地上4階建ての「先端医療棟」に集約されている。

1階は高度画像診断センター、2階は内視鏡センター、3階高度集中治療センター、4階が低侵襲手術センターになっており、いずれも国内最高水準、かつ最新鋭の機器を導入し、高度で専門性の高い治療が行われている。

「手術室は全部で17室あります。CTは4台、MRIは3台、2017年から泌尿器科で開始したロボット（ダヴィンチXi）支援下内視鏡手術は、外科や産婦人科、呼吸器外科に広がり、2024年には2台体制に増設しました。心臓血管領域では、ハイブリッドで実施するTAVI（経カテーテル的大動脈弁留置術）や、脳血管内治療の件数も増加しています。2024年度に心臓血管造影室の増設工事が完了し、血管造影も4室体制で運用しています」

救急医療は、三次救急を担う「救命救急センター」が、厚生労働省の2023年、2024年の救命救急センター充実段階評価で、北陸で最高ランクの「S評価」を受けている。救急搬送件数は年間6千〜6千5百件に及び、富山県のドクター



Profile

加治 正英（かじ まさひで）

富山県立中央病院 院長

1989年 金沢大学医学部卒業
金沢大学医学部附属病院 第二外科入局
1990年 舞鶴共済病院 外科
1991年 金沢大学医学部附属病院 第二外科
1992年 富山県立中央病院 外科
1993年 金沢大学医学部附属病院 第二外科
金沢大学 第二生化
1995年 浅ノ川総合病院 外科
1997年 八尾総合病院 外科
1998年 富山県立中央病院 外科副医長
2001年 富山県立中央病院 外科医長
2008年 富山県立中央病院 外科部長
2017年 富山県立中央病院 診療部長
2020年 富山県立中央病院 医療局長
2022年 富山県立中央病院 副院長
2026年 富山県立中央病院 院長

へり基地病院にも指定されている。

なかでも注目は、「スーパーICU」といわれる特定集中治療室を8床備えていることだ。

「スーパーICUを持つっているのは、北陸ではおそらく金沢大学附属病院と当院だけではないかと思っています。ここにはICUの専門医が5人いて、内科系、外科系を問わず、呼吸器、循環器、代謝など、重篤な急性機能不全の患者さんを収容し、強力かつ集中的に治療を行っています。十分なスペースと、高度な生命補助装置などが設置されており、重篤な患者さんを24時間365日の体制で集中的に管理、統括し、救命につなげます。たとえば心臓血管手術、がん手術など、複数の専門領域の関与が必要となる場合、外科医や内科医が術後の管理を担当することもありました。今はそれも昔。水分管理や抗生剤、心臓、肺などすべての管理をICUの専門医が行います。これが大きな強みで、大学病院でもなかなか救命が難しいような重篤な患者さんを一般病棟へ移送させるなど、スーパーICUの重要性が改めて高まっています」

臨床研修医を育てる病院

さらに、地域医療支援病院、都道府県がん診療連携拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院、がんゲノム医療連携病院などさまざまな指定を受けているほか、すでに紹介した総合周産期母子医療センターとしては、母体・胎児集中治療管理室（MFICU）6床、新生児集中治療室29床、精神科医療では、救急・身体合併症患者の治療を担っている。

臓器移植ネットワークから「臓器提供施設連携体制構築事業」の拠点施設に認定されているのも大きな特徴だ。2023年7月から毎年認定を受けており、「北陸甲信越地域で唯一の拠点施設」（加治院長）として、2025年度は、脳死臓器提供移植と心停止下での臓器提供移植手術を1例ずつ行っている。

県民と地域の命を守る高度急性期病院として万全の体制といえるが、強みはそれだけにとどまらない。多くの医療機関が、医師不足や診療科の偏在などに頭を悩ませる中、富山県立中央病院では「今のところ医師は充足しており、診療科の

偏在などもとくに感じない」状態を維持しているのだ。その原動力の一つが、38名の初期研修医である。

富山県立中央病院は、基幹型臨床研修病院で、卒後臨床研修評価機構の認定を受けており、2023年の審査で「エクセレント賞」を受賞している。これまで数多くの臨床研修医を指導してきた実績が評価された証でもある。

「当院は、大学病院の医師を育てるのに非常に適した環境だと思います。高度で専門性の高い臨床経験が積めますし、学会発表や論文を書いたりもできます。金沢大学や富山大学からの派遣が多いので、数年で移動するなど医師の顔ぶれはかなり変わります。でも当院で初期研修を積んで一旦大学に戻り、いろんな体験を経て再び戻ってくる。そういう先生方が、富山県中の未来を支えてくれるので、今後も若手研修医にはどんどん来ていただきたいと願っています」

高度急性期医療を支え、県民と地域の命を守る。富山県立中央病院の未来に期待したい。



私たちの暮らしも、それをとりまく環境も。いま、社会はかつてない速さで変化しています。社会が変われば、銀行に求められる役割も、必要とされる機能も便利さも、変わるはず。だから北國銀行は、地域の「これから」を見すえて次々と新しいことに挑戦し、変化を続けてきました。それでも、ただひとつ、ずっと変わらないもの。それは、地域のお客様ひとりひとりを想い、ともに豊かな未来へ歩んでいきたいという願いです。あなたが未来を想うとき、誰よりもあなたを想う銀行でありたい。北國銀行はこれからも、あなたと同じ未来を目指すパートナーであり続けたいと考えています。

未来を想う、 あなたを想う。

北國銀行

北國銀行の取り組み
「想う」って、なんだろう？



News & Information 医心ニュース

第16回日本脳血管・認知症学会総会（Vas-Cog Japan 2026）が開催

2026年8月8日、9日の両日、石川県立音楽堂にて、第16回日本脳血管・認知症学会総会（大会長：金沢大学脳神経内科学 小野賢二郎教授）が開催されました。

本学会は、超高齢社会においてますます注目されている脳血管障害と認知症の関係について、従来の枠組みを超えた幅広い視点から、臨床・基礎の両面で研究を推進することを目的として設立されました。学会を構成する医師の専門領域は、脳神経内科学、老年医学、循環器内科学、脳神経外科学、代謝学、薬理学、神経科学など多岐にわたっており、異なる専門領域の研究者が一堂に会して議論できることが本学会の大きな特徴です。総会への参加者も年々増加しています。

2023年にアルツハイマー病に対する抗体医薬が登場し、認知症診療はまさに新たな時代を迎えました。その一方で、アミロイド関連画像異常（ARIA）に代表される脳血管に関連した病態や合併症が、新たな課題として注目されています。

こうした背景を踏まえ、第16回大会では「認知症診療の新時代到来～脳血管に注目した治療と予防～」をテーマに掲げ、新時代の認知症診療のあり方について、脳血管の視点から幅広く議論する学術大会となりました。

プログラムでは、台湾・国立成功大学のMing-Chyi Pai教授による招聘講演が行われたほか、金沢大学循環器内科学の高村雅之教授、金沢大学脳・脊髄機能制御学の中田光俊教授が座長を務めたシンポジウム「脳心循環障害を考える」も開催されました。多くの演題が寄せられ、活発な議論が行われるとともに、脳血管と認知症をめぐる最新の知見を共有する貴重な学びの機会となりました。

また、初日の開会に際してはメディカルオーケストラ金沢による演奏が行われ、学術的な交流に加えて、夜の懇親会では金沢の文化や食に触れる機会も設けられました。両日合わせて270名を超える参加者が集い、大変盛況な学術大会となりました。



次世代の地域医療は「連携」が支える

公益社団法人金沢市医師会会長 大野 秀棋

次世代の地域医療は「連携」が支える

6月26日の理事会で正式に会長を拝命し、これまで以上に重責を感じています。就任直後から、熊本地震に伴うJMAT派遣への対応をはじめ、地域医療を取り巻くさまざまな課題への対応が続いています。一方、地域包括ケアや医療ICTを活用した情報連携など、金沢市医師会がこれまで継続してきた取り組みもありますので、これらを着実に発展させていきたいと考えています。

生方の力を生かしながら、若い先生方にも医師会活動に参画していただき、次の世代につないでいくことが重要です。新旧のバランスを取りながら、持続可能な組織体制をつくっていききたいと考えています。

金沢市医師会は、金沢広域急病センターや地域の休日当番医制度、すこやか検診などの地域医療のインフラ整備に加え、在宅医療や情報連携、地域の連携ルールづくり、人材育成など、地域医療を支える仕組みづくりにも取り組んできました。なかでも医療ICTを活用した情報連携では、「ハートネットホスピタル」と「いしかわ診療情報共有ネットワーク」を活用し、病院・診療所・在宅医療関係者による地域での情報共有を進めてきた。既存事業の継続を含めて、新会長の所信を聞いた。

会長として取り組むべき優先事項として、私は大きく4つあると思っています。一つは、地域医療提供体制の持続可能性をどう維持していくかです。高齢化に伴い、医師の高齢化も進んでいます。会員診療所の医師では65歳以上が5割近くを占めており、10年後を考えると、地域医療を支える担い手の確保は大きな課題になります。

また、働き方改革、人手不足、物価高騰など、医療を取り巻く環境も大きく変化しています。時間外急病診療や休日当番医についても、これまでと同じ体制を維持することが次第に難しくなっています。地域に必要な医療を持続可能な形でどのように確保していくか、早急に検討していく必要があります。

二つ目は、2040年問題を見据え、在宅医療の充実と地域包括ケアをさらに進めることです。今後、85歳以上の

高齢者が増加し、独居高齢者や老老世帯、認知症の方、身寄りのない方なども増えていくことが予想されます。こうした方々を地域で支えていくためには、医療だけでなく、介護や福祉を含めた多職種の連携がこれまで以上に重要になります。

その中では、患者さんご本人の価値観を大切にしたACP（アドバンス・ケア・プランニング…人生会議）を地域でどのように支えるか、また、その情報を必要な場面でのようにつないでいくかも重要な課題です。ACPを支える共有意思決定支援（SDM…Shared Decision Making）やACPエリアーダーなどの人材育成、「金沢市版人生会議ノート」の作成、多職種連携、医療ICTを活用した情報共有についても取り組んでいます。これについては後ほど詳しくお話しします。

健診の「質」を上げる

三つ目は、健診の質をこれまで以上に高め、疾病の重症化予防につなげていくことです。これまで国の方針として、特定健診の受診率や、重症化予防につながる特定保健指導の実施率の向

進した肝疾患のおそれのある方を拾い上げ、適切な診療につなげる取り組みです。こうした取り組みの一つのモデルとして、現在はCKD（慢性腎臓病）や心不全についても、健診を起点とした診療連携の仕組みを検討しています。

特にCKDについては、県でも重症化予防の取り組みが進められていることから、その進捗を踏まえながら専門医の先生方と協議を進めているところです。健診の受診率や特定保健指導の実施率を高めることに加え、健診後の診療までしっかりとつないでいく。そこまで含めて、これからの健診の「質」を高めていきたいと考えています。

医師会を「次の世代へ」

金沢市医師会の中で、大野会長は長年にわたり理事や副会長、金沢市在宅医療・介護連携支援センター（いいがいネット）センター長、地域包括ケア推進委員会チーフ、ハートネットホスピタル運営委員会チーフなどを務めてきた。公衆衛生や健康づくり、医療情報連携など中核的な事業を担当してきた実務派でもある。それゆえ、医師会の事業の継続性については、ひときわ

上が求められてきました。金沢市医師会でも、現在、行政と連携しながら受診率・実施率の向上に取り組んでいます。

一方で、健診で重症化リスクのある方を適切に拾い上げ、その後の診療につなげていくという点については、まだ改善の余地があると考えています。

健診を受けて終わりにするのではなく、重症化リスクのある方を適切に拾い上げ、必要に応じて専門医療へつなげる。そして、かかりつけ医と専門医が役割分担しながら継続して診ていく。こうした健診を起点とした診療連携体制を構築していきたいと考えています。

これは、健診後に必要な受診に至っていない方への対応という意味でも重要です。また、今後さらに高齢者が増加する中では、一人の医師だけですべてを診るのではなく、かかりつけ医と専門医がそれぞれの役割を担う「二人主治医制」による診療連携も、より重要になってくると考えています。健診を起点とした診療連携は、こうした地域医療の体制づくりにもつながる取り組みです。

その一例が、鍛冶前会長のもとで導入された肝臓病リスク評価です。肝線維化の指標であるFIB-4 indexを用いて、

思い入れが強い一面を覗かせる。

ここまで申し上げた三つは、いずれも最優先に取り組むべき課題だと考えています。一方で、これらの事業を将来にわたって継続していくためには、医師会そのものの持続可能性についても考えなければなりません。財政基盤はもちろんですが、それ以上に重要なのが、これから医師会を支えていただく人材です。これが四つ目の大きなテーマです。

現在、会員の高齢化が進む一方、地域によって人口や診療所数、会員の年齢構成なども変化しています。また、自宅会員が増えるなど、会員の構成そのものも変わってきています。こうした構造的な変化を踏まえ、医師会の組織や事業のあり方についても、将来を見据えて検討していく必要があると考えています。

特に重要なのは、若い先生方に医師会の活動を知っていただき、将来的には医師会活動を担っていただくことです。県医師会でも若手医師の医師会への参加を積極的に進めていますので、金沢市医師会としても連携しながら、若い先生方にさまざまな委員会活動などに参加していただき、まずは医師会



の活動や地域医療における役割を知っていたら機会をつくっていききたいと考えています。

そして、委員会活動を通じて、それぞれの専門性を生かしながら地域医療に関わっていただき、そうした経験を積んだ先生方の中から、将来は理事として医師会の運営にも参画し、次の世代の地域医療を担っていただければと考えています。そのためにも、若い先生方にとって医師会活動が単なる負担ではなく、地域医療について学び、自らの仕組みづくりに関わることで、魅力ある医師会活動にしていけることが大切だと考えます。

一方で、若い先生方に参加を求めるだけではなく、医師会自身も変わっていく必要があります。会員構成が変化していることを踏まえると、各連区からの代議員や理事の選出を含め、これまでの組織運営のあり方についても、将来を見据えて見直しを含めた検討が必要になると考えています。

考えています。

多職種をつなぐ連携

金沢市は比較的医療資源に恵まれています。地域医療の未来を考えたとき、もはや一つの医療機関だけで支える時代ではありません。入院治療から退院後の療養、在宅医療、訪問看護、介護まで、切れ目なくつないでいくことが不可欠です。そのためには、病院と診療所だけでなく、医療・介護の多職種がそれぞれの専門性を生かして連携する必要があります。

ACPは、本来、患者さんご本人が自らの価値観を大切にしながら、将来どのような医療やケアを受けたいかを考え、自らつくっていく計画だと考えています。ただ、患者さんご本人だけですべての選択肢や必要な情報を把握することは難しいため、複数の専門職が家族や医療・介護関係者と協力し、必要な情報を提供しながら、共有意思決定支援（SDM：Shared Decision Making）を行うことが重要となります。

療研究センターが実施したACP研修事業に地域拠点として参加し、多職種を対象としたACPエリアーダーの育成を開始しました。令和7年度からは当会の事業として継続しており、これまで39名を育成し、今年度も24名が受講しています。今後も患者さんの価値観を大切にしたSDMを実践し、そのACP情報を地域で適切につないでいける人材を増やしていきたいと考えています。

また、在宅医療・介護連携については、「金沢市在宅医療・介護連携支援センター（いいがいネット）」を中心に取り組んできました。令和4年度からは、各職能団体と市内の在宅医療連携グループの代表が参加する「いいがいネット連携委員会」を設け、市全体の在宅医療・介護連携について多職種で協議し、合意形成できる体制を整えてきました。その中で、入退院時の医療・介護連携のルールやACP情報の共有のあり方などを検討し、現在は「金沢市版人生会議ノート」についても試行版の評価を進めています。

こうした連携を実際の現場で支えるためには、医療ICTも重要です。金沢市の地域医療情報ネットワークには、

ID・Linkを共通プラットフォームとする「ハートネットホスピタル」と「いしかわ診療情報共有ネットワーク」があります。コロナ禍以前には両者を統合する方向で検討していましたが、診療情報の共有と医療・介護の多職種連携では、必要とする情報や利用場面が異なります。また、システム整備に伴う経済的な課題もあります。現在は、それぞれの特徴を生かして機能分化しながら相互の連携を強化する、いわば二層構造の情報共有基盤として運用していくことを考えています。

その取り組みの一つとして、いしかわ診療情報共有ネットワーク運営協議会の承認を得て、メディカルスタッフが参加しやすい環境整備と、ID・Link上でACP情報を共有するための実証事業を進めています。

今後は、こうした情報共有を平時の医療・介護連携だけでなく、急変時や災害時にも活用できる仕組みへ発展させたいと考えています。病院と診療所、医療と介護、そして多職種をつなぎ、それを共通のルールやICTによって実際に機能する仕組みにしていけることが、金沢市医師会の重要な役割だと考えています。



Profile

大野 秀棋（おおの ひでき）
公益社団法人 金沢市医師会 会長

- 1991年 金沢大学医学部医学科卒業
金沢大学附属病院 第一内科入局
- 1995年 金沢大学大学院医学研究科内科学第一講座修了
- 1999年 大野内科医院開設（院長）
- 2010年 金沢市医師会 理事
- 2019年～2022年 金沢栄養ケアセンター長
- 2020年～2026年 金沢在宅医療・介護連携支援センター長
- 2022年 金沢市医師会 副会長
- 2026年 金沢市医師会 会長

院長になって。

～おなかの中から福井を元気にする。～



ふくい内視鏡・胃腸クリニック
宇賀治 良平 院長

2024年7月、福井県福井市にてクリニックを開院いたしました宇賀治良平と申します。内視鏡・消化器内科を軸に、日々診療しております。私事ではありますが等身大の経験と想いを、これから少しずつお伝えしていければと思います。

私は経営者として未熟なままのスタートでした。実際の診療や資金繰りの前では、開業前に準備したものだけでは到底足りませんでした。何とかなるだろうと楽観していた自分もいたと思います。とりあえず船出しちゃったので、漕ぐしかない……そんな開院でした。患者数がどう推移するのかも、十分な見通しはありませんでした。

一方で、支払いは確実に訪れます。医療機器、電子カルテ、診療システム、広告費、人件費、借入返済など……。「個人」の金銭感覚と、クリニックを運営する「企業」の金銭管理の違いには困惑しました。固定費の重み、支払いのサイクル、キャッシュの重要性を痛感する日々でした。2年間は、一瞬で駆け抜けたように感じます。

「おなかの中から福井を元気にする」という理想を

掲げてスタートしたものの、資金繰りや予期せぬ人員面の課題に直面し、理想の医療を提供するためには思いだけでは不十分であると身に染みました。ただ診療をこなすだけでも経営は成り立ちません。支払い、借入返済、設備投資を考えながら診療を続ける中で、院長とは「医師」であると同時に、経営者なのだと強く感じました。

医療人として、「お金のことを考える」ことに後ろめたさを感じることがあります。患者さんのための医療と、経営の数字は別のもののように感じていたからです。「医療でお金の話をするのは、どこか良くないことではないか。」そんな古い価値観が、自分の中にも残っていたのかもしれません。しかし安全に検査を行うには、適切な機器と環境が必要ですし、安心できる診療には、スタッフと一緒に成長していくことが必要です。スタッフに安心して働いてもらうには、安定した給与と職場環境も必要です。それらを支える経営の数字を見ることは、医療を冷たくすることではなく、より良い医療を提供し続けるための、院長として避けて通れない大切な仕事だと捉えるようになりました。

毎日の診療の中で、悩みは尽きません。診療の質をあげるには？組織運営には何が必要？財務はどう改善していく？今後どこに進むべきなのか？迷いに一つひとつ向き合っていくことが、今の私にできる最善の努力だと思っています。消化器内科医がストレスで自らの胃を傷つけることがないように、時には楽しみながら、仕事と向き合っていきたいと思います。

最後に、日々支えてくれているスタッフ、関係業者の皆様、そして当院に関わってくださるすべての方に、心より感謝申し上げます。

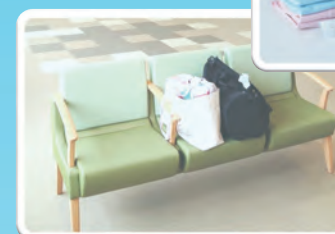


私たちは医療・介護のサポーターとして 全ての人のチカラになりたい。

私たちは誰からも信頼される グッドカンパニーを目指します。

Amenity Corporation

—— 人に、よりそう。人で、よりそう。 ——



株式会社アメニティ

📍 東京都千代田区神田駿河台 2-1-20

☎ 03-6427-6780

📠 03-6427-8210



<https://www.amenity-ss.co.jp/>

全国の事業所は HP の『事業所一覧』をご覧ください。



五月女 さき子

2025年、創薬・医療技術
開発推進室初代室長に就任

大学病院には3つの使命がある。言わずと知れた「臨床」「教育」「研究」だ。その一つ、研究分野において、臨床研究や治験の推進・支援を通して新たな医療の確立をリードするのが、「臨床研究開発推進センター」である。2002年に設置された治験管理センターを起点に、2015年の臨床研究推進センター、2016年の臨床研究管理センターを経て、研究支援・創薬支援機能を拡充しながら発展し、2024年に現在の臨床研究開発推進センターへと改組された。センターは、病気の予防、新たな診断・治療法の確立など、人を対象に行う臨床研究を、多岐にわたる角度から支えてきた。25年10月には、さらなる体制強化を目的に、「創薬・医療技術開発推進室」が発足。初代室長に就いたのが、臨床研究中核病院の長崎大学病院から来た五月女さき子教授だ。

五月女教授は、口腔ケアに関する臨床研究に長年取り組んでおり、数々の施設と連携し、食道がん手術後の肺炎予防で口腔ケアがいかに有効かを探る

研究で、17年に日本癌治療学会の最優秀演題賞に輝いている。国際水準の視座で臨床研究の最前線に立ってきた経験を今、富山大学附属病院で活かそうと、奮闘を始めたところだ。

「大学で生まれた研究シーズをいかに患者さんに届けていくか。創薬・医療技術開発推進室は、そのための『橋渡し役』です。富山大学には、和漢薬をはじめAI・デジタルヘルス、医療機器など、世界に誇る研究が数多くあります。他大学・研究機関の研究者、企業、自治体、医療機関などと結び付け、研究成果を医師主導治験や特定臨床研究に発展させ、診療ガイドラインや日々の診療につなげていくことが私たちの役割だと考えています」。研究を研究で終わらせることなく、患者に届く医療へと昇華させていく。五月女教授は、実現に向けて歩み始めている。

踏み出す一歩を応援 ——若手対象の相談業務も——

橋渡しを担う創薬・医療技術開発推進室では臨床研究に踏み出す背中を強力にプッシュしており、2026年には若手研究者や医療従事者、学生を対





象とした無料の臨床研究相談を開始した。「このテーマは研究になるのか」「対象者に治療などを行う介入研究として実施できるのか」など、臨床研究の入口となるところから、きめ細かくサポートしており、五月女教授のもとにはいくつもの相談が寄せられているという。

「大学病院は研究対象の宝庫です。普段は気づかなかつたとしても、少し視点を変えればいくつもの種を発見できるはずですよ。皆さんの声をぜひ聞かせてください」。五月女教授はこうメッセージを送り、研究構想の段階から研究デザイン、倫理面、論文文化まで、一貫した伴走型の支援を思い描いている。

とりわけ心を砕くのが、研究計画書の作成だ。介入研究を行う場合、病院の倫理委員会に計画書を提出してから認められるまでに、6カ月以上かかることも珍しくない。その理由としては、計画書をまとめることに慣れていないと、倫理委員会に指摘される箇所がどうしても増えてしまい、やりとりが多くなってしまうからだ。

「コスパ、タイプを気にする時代、最初のステップでつまずくと、研究意欲が失われてしまうかもしれません。研究に迅速に取りかかるように、お手伝いしています」。臨床研究が、医療の現場で実用化されるまでの道のりは険しく、長い。だからこそ、未来に大輪の花を咲かせるため、五月女教授は良質な

土づくりに心血を注いでいる。

漢方薬の効果を探る 医師主導治験に着手

富山大学の研究者がまいたシーズ（種）は、臨床研究開発推進センターの後押しを受け、少しずつ芽吹き始めている。その代表例が、しやくやくかんちゅうとう芍薬甘草湯を用いた富山大学初の医師主導治験である。研究を進めたのは、富山大学産科婦人科学講座講座の中島彰俊教授（現センター長）だ。幅広いがん治療に使われる抗がん剤・パクリタキセルの副作用の軽減を目指している。パクリタキセルを投与することで、3〜4割の患者に筋肉痛や関節痛といった症状が現れるものの、通常の鎮痛薬は効きにくい。そこで漢方薬の芍薬甘草湯に着目し、卵巣がん患者を対象とした研究では疼痛期間が半減することを解明。現在、富山県が推進する産学官連携の「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造コンソーシアム（富山くすりコンソ）の支援を受け、富山大学附属病院の複数の診療科とコミュニケーションをとりながら、医師指導治験を推進した。

和漢薬領域では、漢方薬・八味地黄丸はちみじちやうがんによる軽度アルツハイマーの治療効果を探る研究も、特筆すべき臨床研究と言えるだろう。富山大学和漢診療学講座の貝沼茂三郎教授らの



Profile

五月女 さき子（そうとめ さきこ）

富山大学附属病院 臨床研究開発推進センター
創薬・医療技術開発室長
学術研究部医学系先端医研究開発学 教授

1999年 鹿児島大学歯学部 助手
2001年 鹿児島大学歯学部附属病院 助手
2003年 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 助手
2007年 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 助教
2016年 長崎大学病院（歯学系）講師
2020年 長崎大学医歯薬学総合研究科（歯学系）准教授
2025年 現職

研究グループが取り組んでおり、これまでに一部の患者で認知機能の改善がみられることが分かっている。今後は同センターが橋渡ししながら全国25の施設と提携し、200人規模での比較実験を計画。富山大学と包括連携協定を結ぶ岐阜県飛騨市とともに、ふるさと納税型クラウドファンディングで資金調達にあたっている点も特色だ。

「漢方薬は西洋薬に比べて副作用が少ない半面、多様な成分が含まれているので臨床研究の対象としては難しさがあります。ただ、そんな領域だからこそ、長年にわたって和漢薬を研究してきた富山大学の強みを発揮できると思っています」（五月女教授）。

医療の枠を超えた臨床研究DXも推進

臨床研究開発推進センターがコラボレーションを探るのは、医療分野にとどまらない。たとえば、リハビリテーション医学を専門とする服部憲明教授は、ITソリューションを提供する（株）日本オープンシステムズ（本社・富山市）と共同で、腕や手指の動きを対象としたトレーニングシステム「ウデノバース」

を開発した。ウデノバースは、現実世界と仮想世界を融合させる複合現実（MR）を活用し、加齢や疾患などで運動機能が低下した人が楽しみながら体を動かせるシステムで、2026年度中の社会実装に向けた動きが加速している。富山大学の強みであるAI・デジタルヘルス分野では、26年6月に東京大学や富山県と共同研究契約を締結。富山大学学術研究部医学系の梶浦新也講師がPI（研究責任医師）となり、AIを使ったコミュニケーションアプリなどを活用し、通院治療を続ける患者の心理的な負担を軽減する伴走支援モデルの検討をスタートさせた。「研究は富山くすりコンソの一環として実施するものです。分散型臨床試験（DCT）として臨床研究DXを推し進めている点も特徴です」と五月女教授。一般的な臨床試験は患者が医療機関に足を運び、効果を見極めるケースが多いが、今回の研究はスマホやタブレットでアンケートに答えることで在宅からでも参加できる。患者の負担を抑えながら、豊富なデータを積み上げられる点がメリットだ。

富山大学附属病院では、耳鳴りに関する臨床研究でも、データ収集や同意

規約書の提示などにスマホ・タブレットを活用しており、症状に悩む人を全国から募集している。「情報技術を利用すれば、対象者を近隣に限定せずに集められます」と五月女教授。人口減少社会にあって、いかに対象者を募り、効率的に臨床研究を進めていくかは大きな課題だ。創薬・医療技術開発推進室では、そんな時代を見据えた研究のパラダイムシフトにも果敢に乗り出している。

口腔ケア領域で研究をより深く

創薬・医療技術開発推進室室長として研究者を陰に陽に支えると同時に、五月女教授は、自身が力を入れてきた臨床研究もより深化させていきたいと考えている。一例を挙げると、がんの放射線治療で発生しやすくなる口内炎の予防についてだ。五月女教授が有力な候補として注目するのが、ステロイド系の含嗽薬である。2人に1人ががんになる時代、患者の生活の質（QOL）向上を目的にサポータータイプケアを求める声は高まっており、製品化も視野に臨床研究を本格化していく道のりを描いている。

また、薬剤関連顎骨壊死（MRONJ）も、五月女教授が長年追究してきた研究テーマである。骨粗しょう症や骨転移したがんの治療薬に用いる骨吸収抑制薬の副作用として、あごの骨が弱くなる場合があり、予防するためにはどのような口腔ケアが必要かを探っている。

「これらの臨床研究も、私一人の力で進めていくわけではありません。富山大学附属病院歯科口腔外科の協力はもちろん、実用化を目指すには他の診療科や地域などとの連携が必要です。室長として、臨床研究を続ける先輩として、少しでも若手の皆さんのモデルとなれるよう、積極的な姿勢で走り続けていきたい」と話す五月女教授。穏やかな語り口の中に秘めた情熱はきつと、多くの医療人へと伝播していくことだろう。組織や地域の枠を超え、世代の壁も乗り越えながら、薬都・富山の地で、次代を見据えた臨床研究の炎は、着実に燃え上がり始めている。

sosū

select showroom

美意識は、 暮らしの細部に宿る



Concept | 私たちの考え方

「素数」は、1とその数自身でしか割ることができない特別な数。すべての自然数が素数の組み合わせで成り立つように、sosūが選定するアイテムもまた、空間を構成する“基礎的でありながら唯一無二”の存在です。

sosū select showroomでは、工業製品でありながら工芸品のような美しさを備えた水栓金具、洗面ボウル、バスアクセサリなどの選り抜かれた製品を実際に見て、触れていただけます。

設計初期のインスピレーションの創出から、具体的な製品選定、導入後の対応に至るまで、あらゆるプロセスで、理想の空間を実現するためにひたむきに向き合う皆様をサポートいたします。

Access | アクセス

sosū select showroom（三谷産業コンストラクションズ株式会社）

921-8801 石川県野々市市御経塚3丁目47番地

Tel/ 076(269)9988

Fax/ 076(269)4311



<https://sosu-ss-kanazawa.jp> | [@ sosu_ss_kanazawa](https://www.instagram.com/sosu_ss_kanazawa)

健やかな未来のために。

真のソリューションを実現する 価値あるサポート。

丸文通商は、医用機器と科学機器の供給を通じて、人々の健康維持と新しい産業の創造に貢献しています。取り扱いメーカーとの緊密な連携により最新の製品情報をスピーディに提供するとともに、自社のカスタマー・エンジニアによるメンテナンス体制を構築。真のソリューションを実現する価値あるサポートを展開しています。



医用機器部門

各種医用機器・システムの提供はもちろん、マーケティングに基づくアドバイスをを行うなど、メディカルコンサルタントとして病院経営全般をサポートしています。



科学機器・産業機器部門

絶えまなく技術革新を続ける科学機器の最新情報を幅広く収集しながら、ユーザーニーズに応じた、最適なマシン・システムをコーディネートしています。



技術・サービス部門

メンテナンスや修理などのアフターケアによって、ユーザーをサポートするとともに、オリジナル製品や各種システムの開発にも取り組んでいます。

「技術」をつなぎ、「地域」とつながる。
丸文通商株式会社

<https://www.marubun-tsusyo.co.jp/>

金沢支店

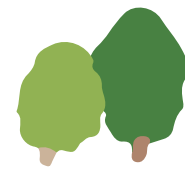
〒920-0385 石川県金沢市松島一丁目40番地
TEL 076-269-1880 / FAX 076-269-2522

富山支店

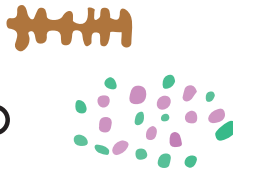
〒939-8214 富山県富山市黒崎2番地1
TEL 076-413-4701 / FAX 076-413-3410

福井支店

〒918-8236 福井県福井市和田中二丁目907番地
TEL 0776-23-8070 / FAX 0776-23-9500



病院に畑をつくる。



～ひかりプロジェクトの理念を形にした「リハビリファーム」～

医療法人社団 紫蘭会 光ヶ丘病院



紫蘭会グループは、高岡市郊外に位置する光ヶ丘病院と新高岡駅近くの介護老人保健施設おおぞらを拠点とし、地域一般・回復期リハビリ・医療療養・特殊疾患病棟、介護医療院に加え、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション、健診・人間ドック事業などを展開している。

また、「ひかりプロジェクト」として、病院を病気の人だけの場所ではなく、子どもから高齢者まで、障がいの有無を問わず集い、つながることのできる居場所とし、多分野との連携を通じて地元高岡・富山を元気にする取り組みを行っている。



リハビリファームHP



光ヶ丘病院HP

この挑戦で私たちが目指したのは、単に野菜を育てることではありません。自然の中で人が笑顔になり、役割を持ち、世代を超えてつながる場所をつくることでした。その想いから生まれたのが、2022年5月に光ヶ丘病院敷地内にある約1,500㎡の空き地に誕生した、病院発のユニバーサル農園「リハビリファーム」です。

■みんながつながる居場所づくり

ひかりプロジェクトは、子どもから高齢者まで、障がいの有無に関わらず誰もが安心して集い繋がり、地域で生き生きと暮らせる社会を目指す取り組みです。リハビリファームはその理念を実践する場として誕生しました。

きっかけは2021年、ディケア光ヶ丘と介護老人保健施設おおぞらで始めた園芸療法でした。テラスで花や野菜を育て始めると、水やりやお世話が患者さんの大切な「役割」となり、それまでテレビを見て過ごすことが多かった方が「今日は水やりをしよう」「野菜を見に行こう」と主体的に行動されるようになったのです。毎日植物の成長を楽しみにされ、「実が色づいたよ」と笑顔で語りかけてくださる方も増えました。植物を育てる喜びは意欲を引き出し、人と人をつなぐ強い力があると実感しました。

実は当初、この空き地には建物を建設する計画もありました。しかし、自然の中だからこそ生まれる笑顔や交流があるはず。誰もが気軽に立ち寄り、役割を持ち、人と人が自然につながる場所をつくりたいという想いから、建物ではなく農園を作る「リハビリファーム構想」へと転換しました。

■みんなが参加できるユニバーサル農園へ構想の過程で、現在ファームディレ

■土と触れ合う時間が生む、心と体の変化

日常的に農に触れる体験は、参加される皆さんの日常に豊かな変化をもたらしています。

土に触れて作物と向き合う時間は、純粹な「楽しさ」や「喜び」をもたらし、心をリフレッシュさせてくれます。「元気がわいて前向きになった」と笑顔を見せてくださる方も少なくありません。また、夢中になって農作業をしているうちに、普段は動かしにくかった手足が自然と動いたり、体の痛みを忘れて作業に没頭されたりする姿も見られます。土の匂いや野菜の手触りが昔の懐

かしい記憶を呼び起こし、「こんなふうに着つんだ」という新しい発見が好奇心を刺激し、生活に張りを与えてくれます。

一緒に作業をし、成長を喜び合う中で、「一人じゃない」「人と繋がっている」という実感が自然と生まれていきます。そこが「ありのままの自分」でいられる安心の居場所になることを目指しています。

平日は患者さんや利用者さんがスタッフとともに園芸活動や歩行訓練、ティータムなどを楽しみ、収穫した野菜を調理して味わっています。今年からは毎週金曜日を「JOY FARM」の活動日とし、農・食体験や青空リハビリ体操、クラフトづくりなど、日常の中に楽しさと役割を取り入れていきます。

■手作りで広がるリハビリファームと地域共生

リハビリファームは手作りで少しずつ育ててきました。2022年末には高岡市ふるさと納税型クラウドファンディングに挑戦し、全国からのご支援によりレイズドベッドを2基から8基へと増設できました。

新人職員研修などを通じた整備も重ね、2023年には生命の泉となる「ピオトープ」が完成。メダカやトンボが暮らす環境が生まれ、今では子どもたちが虫取りに訪れ、患者さんが笑顔で

見守る温かな風景が広がっています。2024年にはピオトープにかかる橋や「顔はめパネル」、2025年には車椅子も通りやすい「ヒカリロード」を整備しました。職員自身が農園づくりに関わることは、「地域とともに歩む病院」の理念を体感する貴重な機会にもなっています。

また、あえて用途を定めない広場を残したことで、ドラムサークルや焚き火をしたり、子どもたちの野球が自然発生的に始まったりすることも魅力です。週末には年間約12回の地域交流イベントを開催しています。出入り自由の「オープンファーム」や親子向け「畑の学校」、芋掘り・ドラムサークルなどを楽しむ「ハロウィン収穫祭」など、農・食・音楽・アート・伝統工芸を通じて多世代が交流しています。

また、地域企業や店舗、ボランティア、学生など、多くの皆さんと連携し、それぞれの得意分野を生かしながら活動を続けています。病院と地域がつながること、新しい交流や挑戦が生まれ、リハビリファームは地域活性化にもつながる「みんなの居場所」へと育ってきました。

今年度は、リハビリファームの取り組みが、農林水産省の助成事業に採択されました。今後は、ユニバーサル農園としての環境整備をさらに進めるとともに、日常利用を充実させ、その価



クターを務める飯尾裕光さんと出会いました。「農を中心にコミュニティをつくる」という考え方に接した瞬間、「私たちが目指していたのはこれだ」と確信しました。2022年3月に講演会とワークショップを開催し、わずか2ヵ月後の5月、リハビリファームが誕生しました。

目指したのは、車椅子や歩行器、杖を使用している方も安心して参加できる「ユニバーサル農園」です。車椅子でも立ったままでも作業しやすい「レイズドベッド」をはじめ、農薬を使わない自然栽培、段ボールを活用した環境再生型農法（No dig 農法）を取り入れています。年齢や障がいの有無を問わず、誰もが同じ場所で土に触れ、収穫の喜びを分かち合える環境づくりを大切にしています。



値を全国へ発信していきます。私たちが目指すのは、患者さんだけでなく、職員、ボランティア、学生、地域住民など、関わるすべての人の心も体も元気になる場所です。

また、リハビリファームで育っているのは、野菜だけではなく、人と人のつながり、そして病院と地域とのつながりです。

これからも地域の皆さんとともに、一人ひとりが「自分らしく生きる」ことのできる地域を育みながら、その取り組みを全国へ発信していきたいと考えています。

（文責 新藤悠子）

福井県小浜市北塩屋

富田耳鼻科

耳鼻咽喉科



富田 かおり 院長

【略歴】

2004年 福井大学医学部卒業
2006年 福井大学医学部附属病院臨床研修了、
同病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科入局
2007年 真生会富山病院に勤務
2010年 理化学研究所横浜研究所ゲノム医科学センター
呼吸器疾患チーム研究生
2012年 福井大学医学部附属病院耳鼻咽喉科・
頭頸部外科医員
2014年 公立丹南病院耳鼻咽喉科科長
2016年 舞鶴共済病院耳鼻咽喉科部長
2019年 公立小浜病院耳鼻咽喉科科長
2026年 富田耳鼻咽喉科 開院

小さな悩みに耳を傾け
住民の健康を支えていく



今年7月、小浜市で新たに開院した「富田耳鼻科」。クリニックに入ると、桐やオニグルミの無垢材のベンチが並び、カフェ風カウンターや壁を飾るシダ植物が和やかな雰囲気を出している。どこかほっとできる空間で、富田かおり院長は、来院者一人ひとりと丁寧に向き合っている。

富田耳鼻科を構えるまで、富田院長は、福井県内を中心に地域の基幹病院で研鑽を重ねてきた。この地で開院したのは、周辺エリアが耳鼻咽喉科クリニックの空白地であり、勤務医としてお世話になった地域で、培ってきた医療技術を還元したいと考えたからだ。

ほっとできるクリニック
7月に小浜市で開院

群馬県伊勢崎市出身の富田院長と福井の縁が結ばれたのは、福井医科大学（現福井大学医学部）入学がきっかけだ。「若いころはとにかく技術を磨きたかった」と振り返り、

地域医療の最前線で
早期発見に心を砕く

富田院長はこう話し、聴力検査や頸部超音波検査、睡眠時無呼吸検査、鼻のつまり解消を目的としたCO₂レーザー治療など、耳鼻咽喉科にかかわる幅広い診療に情熱を傾ける。さらに、今後は医療脱毛にも力を注いでいく計画で、先進のレーザー脱毛機器を導入し、地域の医療ニーズにきめ細かく応えていく考えだ。

「午後や土曜にも診療を行い、地域の皆さんと接する中で新たな発見がいくつもありました。『耳がかゆい』など、ちょっとした違和感がある程度では、大きな病院にかかりにくいと感じる方もいることでしょう。ただ、本人にとってはつらい悩みになっているケースも少なくなく、クリニックでは小さな声にもしっかりと耳を傾けていきたいと思っています」。

耳鼻咽喉科に進んだ後は首や鼻などの手術に夢中で取り組んだ。

「予定されていた2件に加え、緊急の案件が飛び込むなど、目の回る忙しさのときもありました。どれだけ体は疲れていても、実践を重ねる毎日は充実していました」。

そんな時代を経験し、走り続けてきた富田院長。クリニックを開院し、医師としてこれまでとは全く違うステージに立った今、新たなやりがいも見つかっているようだ。「さまざまな悩みでも構いません。地域の皆さんに足を運んでもらいたい。その積み重ねの中で病気を早期発見し、公立小浜病院などにつなげていきたいと思っています」と、富田院長は柔らかな表情で語る。基幹病院と連携を深め、地域の健康づくりの第一歩を、着実に支えていく。



健やかな未来に、潤いを。

主なソリューション内容

- ・新規開業・開局支援
- ・医薬分業支援
- ・経営コンサルティング(事業承継、etc.)
- ・システム・医療機器コンサルティング
- ・各種研修会、医薬経営情報配信サービス

総合窓口 本社 ソリューション部
TEL:076-239-0625
E-mail: solution@jp-finese.com



[本社／金沢支店] 〒920-0295 石川県金沢市大浦町ハ55番地 TEL 076(239)0032 FAX 076(239)0092
[支店] 小松支店・七尾支店・富山支店・高岡支店・黒部支店・福井支店・敦賀支店・名古屋支店
[営業所] 高山営業所・三重営業所・豊橋営業所



吉野谷診療所 所長
橋本 宏樹

公立つるぎ病院 病院長
柿木 嘉平太

白峰診療所・中宮診療所 所長
織田 裕之

包括期に特化し、 総合診療医を育成

シリーズ 最終回 地域医療の変革者たち

公立つるぎ病院

公立つるぎ病院は、2024年7月から新たな一步を踏み出した。
急性期と回復期の機能を併せ持つケアミックス型の病院から包括期に特化した
病院に生まれ変わったのである。包括期医療で、何が、どう変わるのか？
つるぎ病院の病院長と、連携する吉野谷診療所所長、白峰診療所所長に聞いた。

― 病床再編で新たなスタート ―

「公立つるぎ病院（以下、つるぎ病院）」は、2024年7月病床再編を実施した。再編のポイントは、これまでの急性期一般病棟を、2024年度の診療報酬改定で新たに設けられた「地域包括医療病棟」に変更し、運用を開始したことだ。

背景には、運営母体である白山石川医療企業団の政策転換がある（本誌2026年3月110号にて既報）。少子高齢化や人口減少が全国各地で進み、地域医療そのものが大きな変革を求められる中、白山石川医療企業団は、医療圏人口約20万人の健康、生活を守るための改革の一つとして、病床再編に乗り出した。

基幹病院である公立松任石川中央病院（以下、松任中央病院）を「急性期」、つるぎ病院を「包括期」、白山ろくの吉野谷診療所、白峰診療所を「かかりつけ医」にそれぞれ特化し、各医療機関の機能と役割を明確化したのだ。

その方針に基づき、つるぎ病院は今後、急性期一般病床を松任中央病院に移管するため、急性期・回復期の機能を併せ持つケアミックス型から、地域

包括医療病棟と地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟をもつ「包括期」病院に特化し、再スタートを切った。

つるぎ病院と、連携する白山ろくの吉野谷診療所や白峰診療所を含めた地域医療は今後、どうなっていくのか？ 柿木嘉平太病院長、橋本宏樹所長、織田裕之所長に聞いた。

― 高齢者救急の受け皿 ―

つるぎ病院の柿木病院長は、新しく運用を開始した地域包括医療病棟をはじめとする包括期に特化した狙いを次のように説明する。

「地域包括医療病棟は、救急搬送される高齢者の軽症、中等症の急性期患者を速やかに受け入れるための病棟で、主に高齢者が対象です。救急搬送される高齢者の治療、リハビリテーション、栄養管理、入院支援などを包括的に提供し、在宅復帰につなげることを目的にしています。疾患的には誤嚥性肺炎や尿路感染症、脱水などあまり重篤ではなく、治療による負荷によって、患者さんの体力を落とさないことに重きを置いた医療が中心になります。」

治療後の身体機能によって、退院後の患者さんのニーズも変わってきます。自宅での療養を希望される場合は、在宅の療養環境を整えたり、施設での生活を希望する患者さんには、広く施設の紹介に対応します。これにより、今後増えることが予想される高齢者救急の受け皿となり、患者さんが地域への復帰をめざすために必要な医療を提供する体制が整ったと考えています」

柿木病院長によると、2024年当時「東海北陸管内で地域包括医療病床を申請したのは、つるぎ病院が1件目だった」そうだ。県内では、包括期医療に特化した病院はまだ少なく、つるぎ病院はモデルケースに位置付けられている。それから2年余りが経過し、病床全体の稼働率は現在8割を超えるなど、ここまで順調に浸透してきている。

へき地医療の現実

白山ろく一带の医療を支える吉野谷診療所、白峰診療所には、どのような変化や影響があるのか？ 白山ろく地域は、医療圏内で最も高齢化や過疎化が進んでいる。それゆえ、近隣のつる

安心、平穏に暮らしたい」人が多く、橋本所長はその願いを支える地域で唯一の医師でもある。しかし在宅医療の実情は厳しい。

「嫁介護が絶滅寸前で、高齢者の介護のほとんどが別居している実子に依存しているのが実態です。一人暮らしが困難になれば施設に入所するため、私の訪問診療の大半は地域に2箇所あるグループホーム（35名前後）で、在宅診療はわずか2軒しかありません」

近年は、在宅専門クリニックからの訪問診療が参入しつつあるようだが、いずれにしても担当エリアが広く、外来や訪問診療をこなす橋本所長の負担は限りなく大きい。

その負担を少しでも減らすために、橋本所長はつるぎ病院から派遣される研修医、白山市内にある看護学生などを受け入れ、「へき地の地域医療を学んでもらって、将来的に仲間になってもらうことを期待する」日々だ。白山石川医療企業団の一員として、それなりのメリットも感じている。

「平成20年（2008年）に白山石川医療企業団に経営が移管されて以降、つるぎ病院や松任中央病院、白峰診療所とは共通の電子カルテでつながって



ぎ病院が包括期に特化したことで、入院設備を持たない吉野谷診療所、白峰診療所にとっては、「高齢者の入退院支援がより強化され、入院治療が必要な場合は、ご紹介いただければすぐに対応させていただく」（柿木病院長）体制が整ったともいえる。吉野谷診療所の橋本宏樹所長は、担当地域の現状をこう訴える。

「私が担当するエリアは、旧吉野谷村と旧尾口村、旧鳥越村の一部で人口的には3000人弱でしょうか。高齢化率が47%、65歳以上の高齢者世帯が35%、大半が限界集落です。地域によっては町内会組織が成り立たなく、実感として75歳以上が50%を超えているところも多数あると思います。少子化も歯止めがかかりません。小中学校が1校ありますが、今年度は初めて小学校の入学者がゼロになりました。ガソリンスタンドが閉店、建築業が廃業になるなど産業の衰退も進んでいます。地域固有の課題は人材不足で、歯科医院がない、訪問看護ステーションのサテライト化、地域包括支援センターは二人体制が実情です」

こうした状況下でも、地域住民は「住み慣れた地域や自宅で、自分らしく、

おり、患者さんの紹介や情報のやり取りがスムーズにできるので大変助かっています。検査機器などの重装備をする必要もなくなりました。外来で何かあれば、すぐに両病院と連絡できる関係ですし、まだ稼働はしていませんが今後は、つるぎ病院とのオンライン診療体制に期待しています。高齢者が多い地域なので、高齢者救急や地域急性期機能、在宅医療等連絡機能を頼りにしています」

歴史文化が健康意識を育む

同じ白山ろくでも1958年（昭和33年）に設立された白峰診療所は、いささか事情が異なる。白山ろく旧5村（鳥越、吉野谷、河内、尾口、白峰）の中で、いち早く診療所を開設しているが、それ以前には旧白峰村に二つの医院が存在したそうだ。

織田裕之所長は「二つの医院が相次いで閉院したことから、診療施設の継続を願う住民の要請を受けて診療所開設につながったと聞いている」と打ち明ける。開設当時から旧白峰村民の健康管理や疾病対策を目的とした医療を展開してきており、「健康意識は比較的

高い土地柄だったのではないかと、織田所長は推測する。

「その頃は手取川ダム工事でたくさんの方が白峰に入ってきていたようです。3000人〜4000人近い人が暮らしていた時期もあったと聞いています。ダム建設後は急速に人口減少が進み、今ではもう比ぶるべくもありません」

現在、白峰診療所の担当エリアは、白山ろく最南端で手取川の上流地域で、白峰や桑島地区を中心に、一部旧尾口村や吉野谷村、鳥越村、県境を跨いで福井県勝山市からも患者が訪れる。2026年4月から中宮診療所の診療も引き受けている。

変わったところでは、夏の白山登山や温泉湯治客なども足を運ぶ。白峰の出身で、13年前に故郷の診療所に戻ったという織田所長が、現状について振り返る。

「現在の人口は500人前後で、高齢化が進み、65歳以上の高齢化率は46%前後です。橋本先生のところと違うのは、診療所の周囲に住居が固まっていることもあって、容易に診療所に足を運んでくれます。多くは地域で日常生活を平穏に送れることが最大の願いで、

総合診療医が育つ土壌

目下のところ、つるぎ病院、吉野谷診療所、白峰診療所の連携体制は整っている。とはいえ人材不足、スタッフ不足はじめ、電子カルテを介したコンサルタント、患者搬送システムの構築など共通する課題は少なくない。診療領域が広域に及ぶことから、医療アクセスが難しい人への支援や無医地区、準無医地区における診療提供をどうするかといった問題もある。当然、AIの有効活用やリモート診療なども視野に入ってくる。つるぎ病院の柿木院長は、医療連携の重要性をポイントに挙げる。

「重要なのは、急な症状悪化時の対応だと思います。心筋梗塞や脳出血は、様子がおかしければすぐに気づきますが、ちよつと熱がある、少しお腹が痛いなど、重症かどうかはつきりとはわからないような場合は、当院で一旦治療を引き受けて、検査や治療を行います。そして、より高度な医療が必要と判明すれば、松任中央病院に治療を依頼しています。そういう対応ができるようになったことで、橋本先生、織田先生の負荷が少し減らせるようになった



私をはじめスタッフ、調剤薬局スタッフがほぼ患者さん全員の背景を理解しており、些細な変化にも対応できるようにしています。主な対象疾患は、高血圧、糖尿病、慢性心不全などの生活習慣病はじめ、骨粗鬆症、脳血管疾患などが主体で、一次予防、二次予防に力を入れています」

緊急入院や緊急な治療が必要な場合は、同じ企業団のつるぎ病院や松任中央病院へ搬送する。福井県在住者は、JCHO福井勝山総合病院、福井大学医学部附属病院、高度救命救急が必要な場合には、石川県立中央病院、金沢大学附属病院へドクターヘリで搬送できるとなっている。

織田所長が重視するのは、吉野谷診療所と同様に、住民が自宅や地域で健やかに暮らすためにどういう医療を提供するか。「ニーズがあれば、訪問看護ステーションと連携して、在宅医療や訪問診療を行いますし、今は訪問リハビリにも力を入れています。介護施設に入居している人も含めて地域で活動している理学療法士と連携するなど、地域に積極的に出ていきたいと思っています」と意欲を示す。

たのかなどと思います。ただ、正直いつて医師は当院も足りていません。しかし、当院のような病院では医師数を増やすのは難しいので、これからは各医師の守備範囲を広くすることが必要と思っています。期待されているのは総合診療医です。2025年から金沢大学で総合診療共創センターができて、総合診療医を育成・派遣するプロジェクトが動き始めています。当院も総合診療医専門研修プログラムを申請しているところですが、地域医療の研修が可能なのは、県内では奥能登もしくは当院や白山ろくの診療所しかありません。現在、総合診療共創センターから週1回ですが、総合診療医を1名派遣していただいています。今後、在宅や訪問診療など地域医療の支援、バックアップをしっかりしていくためにも、当院で総合診療医が育つ文化、土壌をつくっていかたいと考えています」

包括期医療を支え、白山ろくの訪問診療や在宅医療を多く経験できる。つるぎ病院や白山ろくの診療所には、まさに総合診療医として活躍するための環境が揃っている。

きれいにしたい。 あしたのために。

地域の医療を支えるすべての方へ
私たちは「きれいのパートナー」として、
より良い環境づくりに貢献します。



株式会社 サニクリーン北陸

〒921-8014 石川県金沢市糸田2-5
TEL.076-225-3290(代表)

サニクリーン北陸 取り扱いサービス

法人向けクリーニンググッズレンタル・販売／
プロのクリーニングサービス／オートライフ事業

●WEBサイト

サニクリーン北陸

検索

www.sanikleen.co.jp/hokuriku/



「支える」から、その先へ —— 医師事務作業補助者の 成長による次の役割 ——

—— 医師事務作業補助者の
成長による次の役割 ——

これまでの連載では、医療従事者が無理なく働き続けるためには何が必要なのか、そして医療DXによって生まれた時間をどのように価値へ変えていくのかについて考えてきました。

今回は、そうしたことを全国の医療現場で働く皆さまと共有し考える機会として、私たち日本医師事務作業補助者協会が開催する「第15回全国学術集会」についてご紹介したいと思います。

本学術集会は、2026年11月8日（日）、東京都渋谷区広尾の日本赤十字看護大学にて開催いたします。

今回のテーマは、「医療を支え、動かす力となるために——医療DX時代の多職種協働を担う臨床支援士——」です。

なぜ今、「支える」だけでなく「動かす力」なのか。

医師事務作業補助者は、もともと勤務医の負担軽減を目的として配置が進められてきた職種です。医師の事務作業を

補助し、医師が診療に専念できる環境をつくる。その役割の重要性は、今後変わるものではありません。

一方で、AIをはじめとするデジタル技術の活用が急速に進むこれからの医療では、「指示された業務を正確に行う」だけではなく、現場の課題に気づき、多職種と一緒に解決方法を考える力も、さらに重要になっていくのではないかと感じています。

実際に、全国の医療機関では、医師事務作業補助者がさまざまな工夫を重ねています。代行人力や文書作成だけでなく、人材育成、医療安全、医療DX、データ活用、地域連携、チーム医療など、その取り組みは大きく広がっています。

今回の全国学術集会では、58演題という多数の一般演題が採択されました。これだけ多くの演題が集まったこと自体、全国の医療現場で医師事務作業補助者がそれぞれの課題と向き合い、試行錯誤を重ねながら新しい取り組みに挑戦し

ていることの表れだと感じています。

では、そうした全国の研究発表が一堂に集まることには、医師事務作業補助者にとってどのような意味があるのでしょうか。

私は学術集会の価値は、「素晴らしい取り組みを見る・知ること」だけではなく、思いとっています。他院の発表を聞いて、「これなら自院でもできるかもしれない」と気づく。自分たちにとって当たり前だった取り組みが、他院から見れば新しいヒントになる。そして職種や病院の垣根を越えて、「もっとこうできるのではないか」と話し合う。そのような小さな気づきの積み重ねが、日々の行動を少しずつ変えて、社会に貢献できる職種に育っていくのだと思います。

また、一般演題だけでなく、さまざまな角度からこれからの医療について考えるプログラムも企画しています。

私自身も学術集会会長として「支えるから、動かす力へ——医療DX時代における臨床支援の進化——」と題した講演を行います。また、今年公開された映画「廃用身」の原作者、医師であり小説家でもある久坂部羊先生には、「老いと死と欲望」をテーマに特別講演をいただく予定です。

さらに、シンポジウムでは、事務長、

医師事務作業補助者、行政、それぞれの立場から、学術集会のテーマでもある「医療DX時代の多職種協働を担う臨床支援士（医師事務作業補助者）」について議論を深めます。

医療DXが進むほど、私たちは改めて「人にしかできないこと」を考えることになるのかもしれない。

AIに任せられる仕事はAIへ。その結果生まれた時間を、人を育てること、患者さんと向き合うこと、そしてより良い医療を考えることへつなげていく。そのためには、医師事務作業補助者だけでなく、それぞれの専門性を持った人たちが一緒に考えることが必要です。

今回の全国学術集会が、そうしたこれからの医療を皆さまと一緒に考え、新しい気づきや出会いが生まれる一日になればと思っています。

（第5回につづく）



日本医師事務作業補助者協会

理事長 矢口 智子

「建物の主治医としての自覚」 — これが、みづほのこだわりです。

きたがわUIクリニック 様 【いしかわ広告景観賞 受賞】



外観



待合室



内診室



処置室



風除室



外観

独立の夢、応援します。

培ってきた豊富な経験とノウハウを基に
医療経営コンサルタントによる開業支援

私たちみづほ工業は、医療建築分野での
提案営業スタイルを確立し、
病医院や福祉施設の開業を支援しています。
これまで培った豊富なノウハウを基に診療圏調査、
土地探し、施設提案、事業運営までを
専門スタッフが丁寧にサポート（無償）いたします。
多くのドクターが抱かれている開業についての
不安や不明な点を和らげ自信を持って開業へと
進んでいただけるお手伝いができればと考えております。

医院・歯科医院開業個別相談会

日時 ● 令和8年10月17日(土)・18日(日)
10:00~17:00

会場 ● みづほ工業(株)本社(八日市)

詳しくはHPをご覧ください。

<https://www.mizuho-co.com/medical/>

申込QRコード



木造の新しい選択肢。

店舗・事務所・倉庫・医療福祉施設・保育園・アパートなど鉄骨造が一般的だった大規模建築を木造で。

木造建築の新しい選択肢「テクノストラクチャー」。木造でありながら柱の少ない開放的な大空間を、「木」と「鉄」のハイブリッド複合梁「テクノビーム」で3階建、延床面積3,000㎡まで対応可能です。みづほ工業は建築物の木造化を推進し、地球温暖化の防止や循環型社会の形成、そしてカーボンニュートラルの実現に貢献していきます。

新しい建設サービス業の展開
mizuho みづほ工業株式会社

本社 / 〒921-8964 金沢市八日市5丁目5番2地 TEL: 076-240-7000(代) ホームページ / <https://www.mizuho-co.com>

建築コストの削減	建築工期の短縮
高い耐震性と耐久性	建物の軽量化
設計自由度の高さ	大空間の木造建築



パナソニック耐震工法 テクノストラクチャー

医療情報誌 医心「ISHIN」 協力病院一覧

石川県

金沢大学附属病院
金沢医科大学病院
石川県立中央病院
金沢市立病院
石川県立こころの病院
加賀市医療センター
公立河北中央病院
公立穴水総合病院
公立宇出津総合病院
公立つるぎ病院
公立能登総合病院
公立羽咋病院
公立松任石川中央病院
国民健康保険 小松市民病院
市立輪島病院
珠洲市総合病院
町立富来病院
能美市立病院

石川県済生会金沢病院
独立行政法人地域医療機能推進機構 金沢病院
金沢聖霊総合病院
金沢赤十字病院
独立行政法人国立病院機構 医王病院
独立行政法人国立病院機構 石川病院
独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター
独立行政法人国立病院機構 七尾病院
社会福祉法人松原愛育会 石川療育センター
医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院
医療法人社団浅ノ川 金沢脳神経外科病院
医療法人社団浅ノ川
心臓血管センター-金沢循環器病院
医療法人社団浅ノ川 千木病院
医療法人社団光仁会 木島病院
医療法人社団慈豊会 久藤総合病院
医療法人社団 下崎整形外科医院
医療法人社団橋会 整形外科米澤病院

医療法人社団田谷会 田谷泌尿器科医院
医療法人社団博友会 金沢西病院
医療法人社団藤聖会
金沢メディカルステーション ヴィーク
国家公務員共済組合連合会 北陸病院
小松ソフィア病院
社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院
社会医療法人財団董仙会 恵寿金沢病院
医療法人社団竜山会 金沢古府記念病院
医療法人社団和楽仁 芳珠記念病院
特定医療法人扇翔会 南ヶ丘病院
特定医療法人社団勝木会
やわたメディカルセンター
公益社団法人 石川勤労者医療協会
城北病院
医療法人社団博仁会 小池病院

富山県

富山大学附属病院
富山県立中央病院
富山市立富山市民病院
あさひ総合病院
射水市民病院
かみいち総合病院
黒部市民病院
公立南砺中央病院
富山県リハビリテーション病院・こども支援センター
高岡市民病院
市立砺波総合病院
南砺市民病院
公立学校共済組合 北陸中央病院
独立行政法人国立病院機構 富山病院
独立行政法人地域医療機能推進機構 高岡ふしき病院
独立行政法人労働者健康安全機構 富山ろうさい病院
富山県済生会高岡病院
富山県済生会富山病院
富山赤十字病院
医療法人財団恵仁会 藤木病院
医療法人社団秋桜 丸川病院
医療法人社団尽誠会 野村病院
医療法人社団藤聖会 富山西総合病院
医療法人財団五省会 西能病院
富山県厚生農業協同組合連合会 高岡病院
富山県厚生農業協同組合連合会 滑川病院
医療法人社団 紫蘭会 光ヶ丘病院

福井県

福井大学医学部附属病院
福井県立病院
市立敦賀病院
独立行政法人国立病院機構 あわら病院
独立行政法人国立病院機構 敦賀医療センター
福井県済生会病院
独立行政法人地域医療機能推進機構 福井勝山総合病院
福井赤十字病院
医療法人福井心臓血管圧センター
福井循環器病院
医療法人厚生会 福井厚生病院





スギ薬局



私たちは地域の皆様に 寄り添い、頼られる 薬剤師になります。

超高齢社会の中で、ドラッグストアに求められる機能、地域社会において果たすべき役割が拡大しています。その中で当社は、地域の皆様の『健康の維持・予防・未病』から『治療・看護・介護・終末期』まで、生涯に渡ってトータルなヘルスケアサポートを行います。

各種、医療機関、クリニックの処方箋応需



地域の健康維持・増進をサポートする 石川県庁前店



コミュニティスペース

血管年齢、筋肉量・脂肪量等がいつでも無料で測定可能。管理栄養士がカウンセリングします



介護ステーション

初めての介護の相談や介護用品の販売・レンタルまで福祉用具専門相談員が親切に対応します

中部・関西・関東・北陸・信州・ 北海道・東北に出店エリア拡大中!

グループ合計

(2024年
6月末現在)

1,760店舗

関西 581店

北陸・信州 84店

北海道・東北 3店

関東 502店

中部 590店

■ 全社
売上高 **7,444.8** 億円 前期比 +11.5%
(年間計)

■ 調剤
売上高 **1,587.8** 億円 前期比 +11.5%
(年間計)

■ 処方箋
枚数 **1,475.9** 万枚 前期比 +14.3%
(年間計)

■ 訪問調剤
対応店舗数 **601** 店舗 前期比 +6.4%
(年間計)

■ 訪問調剤
患者数 **189,109** 名 前期比 +7.4%
(年間計)

2023年度実績

詳しくはHPをご覧ください。 <https://www.drug-sugi.co.jp/>

スギ薬局

検索

〒474-0011 愛知県大府市横根町新江62番地の1 TEL 0562-45-2700